



## 【大学院(文系)部門】駒場アカデミック・ライティング・センターでのチュートリアルの方針

本センターは対話ベースのチュートリアルを通じて、論文執筆に関する様々な相談に応じます。例えば、文章全体の構成、論理展開、引用(本文中の引用、文献リストの適切さなど)、表現・語彙選択などについて相談できます。また、執筆や研究の構想について、チューターと一緒にブレインストーミングをすることもできます。しかしながら、校閲を行うわけではないのでご注意ください。

チュートリアルは自ら改善と推敲を重ね、自立的に書き進められる‘よい書き手の育成’を目指し、以下の方針に基づいて行います。

1. 相談者が取り組んでいる課題の内容と相談事項をチュートリアルの冒頭で丁寧に聞き取ります。その上で、相談者が最も改善したい点を中心に議論します。相談時間は1セッション40分と限られているため、相談者は相談したいこと、直近で解決したいことを明確にしておくようお願いいたします。
2. 初回のチュートリアルでは、相談事項の内容把握に努めます。したがって、1回のチュートリアルでは問題解決に至らず、今後の計画を立てた上でチュートリアルの継続利用を提案することがあります。(2枠連続で予約することも可能です。その場合、1枠目の予約後、再度予約サイトのトップページに戻って、1枠目と同様に2枠目の予約をしてください。)
3. チュートリアルでは、どのような研究領域においても共通して求められる論理性や明快さなどの観点から、文章または研究に関する事柄を検討します。具体的には、論理展開に加え、文または文章の間の結束性および一貫性、引用の適切さ、文型や表現・語彙選択の正確さなどの言語形式と書式に関することを指します。ただし、専門用語の適切さなど、特定の専門分野で前提とされる事柄については、相談者が責任を負うこととします。
4. チューターは校閲者ではないので、一方的におよび逐語的に文・文章を修正することはしません。問題の所在と改善の方向性について対話を通じてチューターと相談者が一緒に考え、‘よい書き手’の育成を目指します。
5. チューターは問題点を指摘したり、改善の方向性を提案したりしますが、最終的な選択と判断は相談者に委ねます。
6. 原則として相談者の専門分野に特化した内容への助言は行いません。
7. 投稿論文や学位論文については、3で示した通り論理展開や言語形式の改善に向けて議論することは可能ですが、本センターは論文の採否、合否に対する責任を負いません。

以上の方針に同意いただいた上で、チュートリアルの利用をお願いいたします。